

# 学位に付記する専攻分野の名称の在り方について（論点整理）

吉川裕美子

## 1. これまでの議論と合意内容

- ・ 各大学の個性化・特色化に伴う教育課程の多様性と、それに起因する専攻分野の名称の多様性という現状を容認したうえで、学位に付記する専攻分野の名称の在り方について、日本学術会議として一定のルール（方針、考え方）を示す。
- ・ 一定のルール化で示される方針は、学士のみならず修士、博士の各学位に適用されることに留意する。
- ・ まずは英名表記の在り方を検討する。学位の英名表記が、拠って立つ学問分野と、さらに教育課程編成上の重点分野を階層的にあらわす構造をなすことによって、国内外の通用性を確保している点に留意する。こうした考え方を、和文の専攻分野の名称の表記にどのように反映することができるかについて、さらに検討する。
- ・ 修士、博士の学位（大学院課程の学位）と、専門職学位との異同が、英名表記においても明確に区別されるような方針を検討する必要がある。

## 2. 具体的な論点

○学位に付記する専攻分野の名称の在り方に関する一定のルール化

国際的通用性の確保に留意した英名表記の在り方（再掲）

諸国に共通した、標準的な学位の英名表記方法はない。

学位（およびその英文名称）は3つの基本的な要素から構成されている。

- (1) レベル … Bachelor（学士）、Master（修士）、Doctor（博士）など
- (2) 分野 … 学問分野（学問体系が確立した上位の分野）
- (3) 下位の専門 … より詳細な専門分野

日本においても、「(1) of (2)」あるいは「(1) of (2) in (3)」という形で表記することを原則とすべきではないか。

ただし、日本の大学の歴史や特色に配慮した、学位の英名表記を検討する必要がある（とくに、(2)に記載する学問分野の範囲について要検討）。

\* Bachelor of Arts, Bachelor of Science と医学、工学などの関係

\* 教育課程全体に占める専門科目の量（修得単位数）の関係

\* 学際融合分野

\* 修士、博士の学位（大学院課程の学位）と、専門職学位との異同

・ **専門職学位の英名表記**

専門職に結びついた分野は、同じ名称を冠することが望ましい。

学協会、専門職関係機関（専門職団体、認証評価機関など）との協力が必要。

**和文表記の在り方**

・ **複数の学問分野を併記することへの制限**

学位に付記する専攻分野の名称として、関係する学問分野を複数併記することは避けられるべきである。

その方針についても、ルール化し明記することは必要と考えられる。

（英名表記においてダブル・メジャーと誤解されるおそれがある。）

・ **大学設置分科会の各専門委員会と構成する専攻分野の名称**

大学設置分科会の各専門委員会における専門の事項の審査を実施するため、専攻分野が構成されている（構成する専攻分野の名称）

→学問分野、専攻分野の範囲として一つの考え方とならないか。

・ **同一の教育課程の修了者に、異なる名称の学位を出す可能性の有無**

一般学生と社会人学生